

教科書の 42 ページを見ながら、()に入る言葉を書いて下さい。

自然とくらし

1 生物

地球には、多くの(①)が生きています。私たちはその生物をさまざまに(②)して暮らしているのです。植物、動物、微生物について学習しましょう。

(1)植物

植物は、(③)と(④)と二酸化炭素を利用して生きています。(⑤)のよく場所を好むもの、(⑥)場所を好むもの、水のなかにはえているものなど、さまざまな場所で生きています。

□植物を観察してみよう

花

花には、(⑦)と(⑧)があります。おしべから出る粉を(⑨)(かふん)といいます。花粉は、(⑩)や(⑪)に運ばれて(⑫)の先につきます。めしべの先に花粉がつくと、めしべの下の部分がふくらんで(⑬)になります。実のなかには(⑭)(しゅし)があります。

私たちは、実を食べるだけでなく、種子もくらしに役立てています。例えば、菜種油(なたねあぶら)はアブラナの種子をしぼってつくられる(⑮)です。また、ワタの種子にたくさんはえている長い毛からは(⑯)(もめん)がつけられます。

葉

葉は、主に(⑰)を利用して養分(ようぶん)でんぷんをつくる器官(きかん)です。葉緑素(ようりょくそ)という物質がふくまれていて(⑱)をしています。

さくらもちやかしわもちは、サクラやカシワの葉でもちを包み、風味や食感を、(⑲)させることができる物質を利用した食品です。

茎(くき)

茎は、葉でできた(①)を運んだり、根から吸収した養分・(②)を運びます。茎をさいてみると(③)がたくさんならんでいるのがわかります。せんいはとても細く、葉から根までつづいています。

コウゾ、ミツマタなどの茎のせんいは(④)の原料として使われています。

根

根は主に土のなかの養分や水を(⑤)する器官です。できるだけ多く養分・水を吸収するために、たくさん(⑥)しています。

アカネなどの根は、布を(⑦)時に使われます。

□植物の種類について調べよう

植物は、(⑧)がさくものと、さかないものに、大きく分けることができます。

花がさく植物にはアサガオやヒマワリなどの(⑨)のほか、サクラやツツジなどの(⑩)があります。一見、花がさかないように思われるマツやイチョウ、イネなどにも(⑪)花がさきます。花がさく植物は(⑫)で増えます。また、その多くがどこが(⑬)、茎(くき)、(⑬)であるか、はっきり分かれているものが多いです。

花がさかない植物には(⑭)、シダなどがあります。これらの植物は(⑮)で増えます。胞子はとても小さく、目で見ると粉のようです。花がさかない植物ははっきりと葉、茎、根に(⑯)ものもあります。

□植物の特徴を知ろう

植物の発芽

植物の種(たね)などをまくと、(①)を出します。これを(②)といいます。種子のなかには発芽するために必要な養分がふくまれています。

植物が発芽するためには、(③)、空気、適当な(④)が必要です。この3つのうちのどれが欠けても発芽しません。

光合成

植物は、(⑤)のエネルギーを利用して、水と(⑥)(にさんかたんそ)から養分(ようぶん)をつくっています。水は根から吸収され、(⑦)に運ばれます。

葉には気孔(きこう)という小さな(⑧)がたくさんあり、ここから(⑨)を取り入れています。また、葉では根から運ばれた水と空気中の二酸化炭素をもとに、日光のエネルギーを利用して養分をつくっています。

そのため、植物の成長には(⑩)と水、(⑪)が欠かせません。